

単元づくり

～単元は学びのストーリー～

探究的な学びのポイント

- A 自分事となる課題の設定 B 学び合いの目的の明確化
C まとめ・振り返りの充実 D カリキュラム・マネジメントの充実

1 時間の授業

～ねらいとまとめを明確に～

教科の特性を踏まえた
深い教材研究

教科・単元に関する
的確な児童生徒理解

年間指導計画に基づく実践と評価

単元を貫く課題設定＝単元末のゴールの姿をイメージして

- 教科の目標を達成する課題
- 子ども自身が学習の見通しと必要感を持つことができる課題
- 習得、活用、探究場面をバランスよく取り入れた単元計画を子どもとの対話を通して共有する

子どもの学びを「縦」と「横」でつなぐ D

- 育成する資質・能力を明確にした教科の本質に迫る単元づくり
- 他教科等や既習事項とのつながりを意識した単元づくり

単元の導入

- 単元を貫く課題や単元を通してつけたい力を子どもと共有する
・ 子ども自身が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるか」を捉える
- 子どもの心を動かす教材との出会い＝「問い・願い・思い」を引き出す

単元の展開

- 子ども自身が目標に向かう一時間ずつの学びの積み重ねを実感する
- 子どもの学びを見取り、必要に応じて、指導計画を修正
- 単元末のゴールの姿に近づくための学習活動、手立て

単元のまとめ・振り返り

- 子ども自身が単元を通した学びの成果を実感する
・ 学びを活かす、見つめ直す、自己の変容を自分の言葉で語る姿等
→ 深い学びと次の学びへ向かう力
- 単元を通した学びの見取りを確かな評価へ
・ 指導と評価の一体化／評価の規準、方法を明確に
・ 評価を子どもの学習改善、教師の指導改善につなげる

教科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する



課題のつかみと学びの見通し A

- つけたい力を明確にした課題
・ 教科のねらい（目標）に向かう課題
- 「自分事」となるために
・ 解決への意欲や目的意識が持てる課題、必要感のある課題
・ 教師と子どものやりとりによる課題の共有化
・ 課題解決の見通しを持たせる場の設定

授業の展開の中で B

- 学び合いの目的の明確化
・ 目的を明確にしたペア、グループ、全体での学び合い
→ どのような学習効果をねらうのか、何を明らかにするのか、学習内容を深く理解するために有効か等を明確に
- 本時のねらいを達成するために
・ 子どもの思考に寄り添った働きかけ
→ 価値づける、揺さぶる、問い返す、引き出す
違いをいかす、つなげる、あえて待つ等を適切に
→ 見取りをもとに、個に応じた支援を

学びのまとめ・振り返り C

- まとめ＝課題に対する答え・結論
・ 「何を学習したのか」をねらいに沿ってまとめる
・ 学習したことを活用する場の設定（適応問題、表現活動等）
- 振り返り＝自己の変容や学んだ実感
・ 課題に対して、活動に対して、単元の中で、他との関わりで、次時の学習に対して等の視点で振り返ることで、自分の学びの自覚化を図る
- 子どものまとめ・振り返りから学びを見取り、次時へ、評価へつなげる

〈教師の単元デザイン力〉 子どもの思考を思い描いて

〈教師の授業コーディネート力〉 「出」と「待ち」を見極める